

イ・ギホ『舎弟たちの世界史』

小西直子 訳

2020年春刊行予定



第47回「韓国日報文学賞」(2014年)受賞作。

1980年、全斗煥が大統領に就任すると、大々的な「アカ狩り」が開始され、でっち上げによる逮捕も数多く発生した。そんな時代のなか、ごく普通のタクシー運転手ナ・ボンマンは、軽い接触事故が引き金となって、まったくあずかり知らぬ国家保安法がらみの事件に巻き込まれてしまう。思いもよらない罪を着せられた彼は、小さな夢も人生もめちゃくちゃになっていく。80年代初めの軍事政権下における「国家と個人」「罪と罰」という重たいテーマを扱っているが、スピード感ある絶妙な語り口で、読者の共感を引き出していく。人生に対する鋭い洞察、魅力的なキャラクター設定によって、不条理な時代に翻弄される平凡な一市民の人生を描いた悲喜劇的な秀作。

イ・ギホ (Lee Kiho) 1972年、江原道の原州で生まれる。1999年に「現代文学」を通じて登壇。短編集『チェ・スンドク 聖霊充滿記』『ワタワタしているうちに嗚呼やっぱり』『キム博士とは誰なのか?』、長編小説『謝るのは得意』などがある。李孝石文学賞や金承鉦文学賞、黄順元文学賞を受賞。現在、光州大学文芸創作学科教授。

邦訳書：『原州通信』(クオン、2018年)、『誰よりも親切な教会のお兄さんカン・ミノ』(亜紀書房、近刊)

イ・ジン『ギター・ブギー・シャッフル』

岡 裕美 訳

2020年春刊行予定



第5回「秀林文学賞」(2017年)受賞作。

新進気鋭の女性作家が、韓国にロックとジャズが根付き始めた1960年代のソウルを舞台に、龍山(ヨンサン)の米軍基地内のクラブステージ「米8軍舞台」で活躍する若きミュージシャンたちの姿を描いた音楽青春小説。

朝鮮戦争など歴史上の事件を絡めながらも軽やかな文体で読ませ、60年代当時の音楽シーンの混沌と熱気を生々しく描ききった、爽やかな読後感を残す作品。

米軍内のクラブで演奏するためのオーディションシステムやよりステータスの高いステージに立つためにミュージシャンらが繰り広げる熾烈な競争、当時の芸能界に蔓延していた麻薬と暴力についての描写はリアリティがあり、当時の風俗を知る貴重な資料として読み解くこともできる。

イ・ジン (Lee Jinn) 1982年、ソウル生まれ。大学ではデザインと映像理論を専攻。2012年、長編小説『ワンダーランド 大冒険』が第6回飛龍沼ブルーフィクション賞を受賞し、小説家デビュー。2014年に2作目の長編小説『アルジュマンド・ビューティーサロン』を発表。2017年、3作目の長編小説となる本作で第5回秀林文学賞を受賞。

ソン・ホンギョ『イスラーム精肉店』

橋本智保 訳

2020年刊行予定



「老斤里平和文学賞」受賞作。韓国図書館協会優秀文学図書。

物語は、朝鮮戦争に参戦した後、韓国に残ることになったトルコ人が、心と身体に深い傷を負った孤児の少年を養子に迎えるところから始まる。

信仰篤いムスリムであるにもかかわらず豚肉を売る仕事に従事するトルコ人、親戚を射殺した後悔から故郷に戻ることができないギリシャ人、戦争で一切の記憶を失ってしまった韓国人の中年男、暴力をふるう夫から逃げてきた女性……。

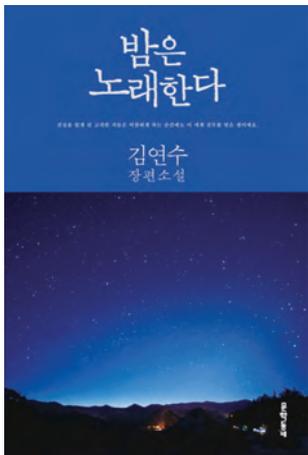
作家は、ソウルのモスク周辺のみすばらしい路地に集う多様な人物を登場させ、戦争という集団的狂気が残した傷と暴力の凄まじいトラウマとその後遺症を露わにするが、やがて少年が苦しめられ続けた深い傷を癒し、遅く成長していく過程を流麗な文体で描く、心あたたまるヤングアダルト小説。

ソン・ホンギョ (Son Hong-kyu) 1975年、全羅北道生まれ。東国大学国語国文学科卒。2001年、「作家世界」で新人賞を受賞し、デビュー。短篇集に『人の神話』『ボンソピいわく』『トムはトムと寝た』、長篇小説に『ソウル』『青年医師 張起呂 (チャン・ギリョ)』など。李箱文学賞優秀賞、白信愛文学賞、呉永寿文学賞、老斤里平和文学賞などを受賞。

キム・ヨンス『夜は歌う』

橋本智保 訳

2019年冬刊行 / ISBN978-4-7877-2021-4 / 予価2,300円+税



詩人・尹東柱の生地としても知られる「北間島（ブッカンド）」（現在の中国吉林省延辺朝鮮族自治州）。現代韓国を代表する作家キム・ヨンスが、1930年代の北間島を舞台に、愛と革命に引き裂かれ、国家・民族・イデオロギーに翻弄された若者たちの不条理な生と死を描いた長篇作。韓国でも知らない人が多い「民生団事件」（共産党内の粛清事件）という、日本の満州支配下でおこった不幸な歴史的事件を、その渦中に生きた個人の視点で描いた作品。極限状態に追いつめられた人間は精神の自由を保ち続けられるのか、人間は国家や民族やイデオロギーの枠を超えた自由な存在となりえるのか、人が人を愛するというとはどういうことなのか、それらの普遍的真理を小説を通して探究している。

キム・ヨンス（Kim Yeon-su）1970年生まれ。1993年、詩人としてデビュー。翌年、長編小説『仮面を指して歩く』で作家世界文学賞を受賞し、作家活動を本格的に開始。現代人の心の機微を繊細に描写した数々の長篇・短篇作品があり、韓国で幅広く支持されている。邦訳書：『世界の果て、彼女』（クオン、2014年）、『ワンダーボーイ』（クオン、2016年）、『皆に幸せな新年・ケイケイの名を呼んでみた』（トランスビュー、2011年）

キム・ヨンス『ぼくは幽霊作家です』

橋本智保 訳

2020年春刊行予定



9本の短篇からなる本作は、「韓国史について」の小説であり、「小説について」の小説である。キム・ヨンスの作品は、史実をもとにして小説を創作するという行為をはるかに超えて、小説を書くことによって、歴史に埋もれていた個人の人生から〈歴史〉に挑戦する行為、つまり小説の登場人物たちによって〈歴史〉を解体し、〈史実〉を再構築する野心に満ちた試みとして存在している。

本作で扱われる題材は、伊藤博文を暗殺した安重根、満州事変直後の京城（ソウル）、朝鮮戦争下の延辺、そして現代のソウルに生きる男女などである。だが時代背景を忘れてしまいそうなほど、そこに生きる個人の内面に焦点が当てられ、時代と空間はめまぐるしく変遷していく。その意味において、作者は「嘘つき」であり、「幽霊作家」なのである。

彼の作品は、歴史と小説のどちらがより真実に近づけるのかを洞察する壮大な実験の場としてある。



キム・エラン／キム・ヨンス／パク・ミンギョ／ファン・ジョンウン ほか 『目の眩んだ者たちの国家』 矢島暁子 訳

四六判上製 / 256頁 / ISBN978-4-7877-1809-9 / 定価1,900円+税

〈傾いた船、降りられない乗客たち〉。

国家とは、人間とは、人間の言葉とは何か――。

韓国を代表する気鋭の小説家、詩人、思想家たち12人が、セウォル号の惨事で露わになった「社会の傾き」を前に、内省的に思索を重ね、静かに言葉を紡ぎ出す。中島京子氏、武田砂鉄氏評をはじめ、SNSでも大きく話題になった評論集。



〈戦後〉の誕生

戦後日本と「朝鮮」の境界

権赫泰・車承棋 / 編
中野宣子 / 訳 中野敏男 / 解説

四六判上製 / 336頁

ISBN978-4-7877-1611-8

定価2,500円+税



歌は分断を越えて

在日コリアン二世の
ソプラノ歌手・金桂仙

坪井兵輔 / 著

四六判 / 248頁

ISBN978-4-7877-1906-5

定価1,900円+税



海女たち

ホ・ヨンソン詩集

ホ・ヨンソン / 著
姜信子・趙倫子 / 訳

2020年春刊行予定

